

如水会寄附講義

「社会実践論」講義要綱

(2011年度夏学期)

講義責任者: 筒井 泉雄

2011年4月19日(火) 26日(火)
オリエンテーション14時40分(15時より講義)
東2号館 2201番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、社会の第一線で活躍されている、本学出身の12名の先輩の方々に、オムニバス形式による講義(火曜4限)をお願いしています。

皆さんが、将来への展望を胸に膨らませ、希望を実現するための学問を涵養する指針となるように、また如何に学ぶかを考える指針となるように、「学生時代に何をしてきたか」、「どのように人生を歩んできたか」など、経験に裏打ちされた職業意識、人生哲学、現代産業の現状など、自らの経験を踏まえた講義を、現在第一線で活躍されている先輩の方々にお願いしています。諸先輩講師陣は、自身の歩んでこられた経験と、現在の立場から、社会、日本、世界を鮮やかな切り口で切り取り、現代社会や社会実践のありかたを皆さんの前に、簡潔に広げてくださいます。

皆さんは、講義を聞き、先輩の方々の生き方やグローバルな考え方に触れ、自身と照らし合わせて考え、質疑応答、感想、意見という形で返し、ともに学ぶ場を作り出すことで、キャリア形成の第一歩を踏み出してください。

なお、本講義は、如水会及び一橋大学の学問風土の活性化を目指して、故永井正(22学)氏が寄附された基金をもとに運営されている一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。

	日付	テーマ	講師
第1回	4月 19日 (火)	一橋の精神と風土	大澤 俊夫
第2回	4月 26日 (火)	目標とすべき到達点から遡って 今何をすべきかを考える	浦部 明子
第3回	5月 10日 (火)	労働市場のパラダイムシフトと 学生に求められるもの	井上 永徳
第4回	5月 17日 (火)	社会人の資産形成	野尻 哲史
第5回	5月 24日 (火)	ヤマトの満足創造経営	木川 眞
第6回	5月 31日 (火)	職業・仕事の一生	長門 正貢
第7回	6月 7日 (火)	宇宙開発の現場で働くということ	庄司 義和
第8回	6月 14日 (火)	中央銀行で働くということ	服部 正純
第9回	6月 21日 (火)	国際報道の現場から	白川 義和
第10回	6月 28日 (火)	チャレンジからチャンスは生まれる	田内 直子
第11回	7月 5日 (火)	後悔しない人生を送るために	引頭 麻実
第12回	7月 12日 (火)	正義とお金	深田 豊大

第1回 4月19日(火)



テーマ : 一橋の精神と風土

講師 : 大澤俊夫 東京商科大学・昭和27年(1952年)卒
元 NECリース株式会社
(現 NECキャピタル・ソリューション株式会社) 会長

一橋大学は、明治8年(1875年)に、私塾商法講習所として、生まれてより136年の歴史を経て、今日の我が国屈指の社会科学の総合大学に発展するまでに至った。しかしその道程は平坦なものではなかった。数回にわたる学園存亡の危機があったが、その都度全学が一致して闘い、克服してきた。しかもその間、常に本学は、我が国の経済社会の近代化の先駆者として、学問と実践の両面にわたって有為な人材を輩出してきた。このような本学の活力を産み出してきたものは何であったのか、その「精神と風土」について語り、併せて、本学の建学の精神を体現する言葉「キャプテンズ・オブ・インダストリー」の現代的意義について言及したい。

第2回 4月26日(火)



テーマ : 目標とすべき到達点から遡って今何をすべきかを考える

講師 : 浦部明子 法学部・平成10年(1998年)卒
虎ノ門南法律事務所 弁護士

弁護士は資格試験なので学生時代の勉強等とは関係がない、と置いていたら大間違い。すべて後から気付いたことであるが、予備校通いののにわか勉強では浅薄な知識しか身に着かないし、例えば海外ロースクールに留学する際には学生時代の成績も必要となる。また日々の業務では総合的な「人間力」も試されるのが弁護士。大学は貴重な資源であったのに、私のはのんびり無為に過ごしてまったく活用してこなかったことの反省を込めて、学生時代に何をすべきだったのかをお話し、併せて弁護士の職務内容、弁護士業界をめぐる厳しい現状を紹介したい。

第3回 5月10日(火)



テーマ : 労働市場のパラダイムシフトと学生に求められるもの

講師 : 井上永徳 商学部・平成14年(2002年)卒
有限責任事業組合マエストロ 代表

学生の皆さんにとって、卒業後のキャリア形成というのは大きな関心事だと思います。金融機関を経て、現在は人事関連ビジネスの世界に身を置く者として、労働市場はこれまでの数十年とは全く異なるパラダイムシフトが起こりつつあると考えています。必然的に、学生の皆さんが学生時代に身につけて醸成すべき知識や教養、思考体系にも変化が要求されてきています。それは、就職活動の小手先のテクニックや資格取得などよりも優先されるものなのです。

これまで私がお会いしてきた様々な立場のビジネスパーソンの事例をご紹介しながら、現在と近い将来の労働市場について、そして学生時代に何を学ぶべきなのかについて皆さんと一緒に議論したいと思います。

第4回 5月17日(火)



テーマ : 社会人の資産形成

講師 : 野尻哲史 商学部・昭和57年(1982年)卒
フィデリティ退職・投資教育研究所 所長

社会人としての資産形成にどのように取り組んでいったらいいかを一緒に考えます。投資理論や具体的な投資の方法といった専門的な議論ではなく、なぜ資産運用が必要なのかを30年近い金融業界での私の経験やサラリーマン1万人に対するアンケート調査の結果等を踏まえて考えます。20年後、30年後の景気や為替、金利を予測するのは不可能に近いのですが、出生率や死亡率などから求めていく20年後、30年後の人口構造、人口動態はより確からしいものです。しかも、これは、個人の生活だけでなく経済や政治や国際関係にも重大な影響を及ぼす大きな変化です。長いスパンで、より広い視野から自分と金融市場や資産形成といったものを見直すチャンスにしてください。

第5回 5月24日(火)



テーマ : ヤマトの満足創造経営
講師 : 木川 眞 商学部・昭和48年(1973年)卒
ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長 社長執行役員

日本人なら誰もが使ったことがある“宅急便”は、今では生活に欠くことのできないインフラとなっている。それを支えているのは、発売初日が11個しかなかったものを年間12億個を超えるまでに成長させた、第一線社員のサービス品質、現場力であった。

しかし、大きな成功体験により危機感が薄れ、お客様の要望に応える商品開発のスピードが遅くなってしまった。以前の活気あふれるヤマト運輸を取り戻すために、社長就任以来、社内になさざる罪を説いてまわり、叱る文化から褒める文化へ組織の風土を改革してきた。

これが4年間かけて行ってきた社員、社会、会社の3つの満足を追求する満足創造経営である。経営者として満足創造経営を決断した経緯を私の学生時代の経験、職業経験を踏まえ、学生の皆さんにお話したい。

第6回 5月31日(火)



テーマ : 職業・仕事の一生
講師 : 長門正貢 社会学部・昭和47年(1972年)卒
富士重工業株式会社 代表取締役 副社長
元 日本興業銀行常務、みずほコーポレート銀行常務

豊かな趣味を一生追求し続けて仕事との二足の草鞋を巧みに共生せしめる器用な人も居るが、そんな人にとっても、現代日本において、仕事・会社・職業の各個人・人生に占める位置は大きい。その職業・会社をどのように選択するのか、その後、どのように仕事をしつつプロへの成長を図り且つ生存競争に生き残って行くのか、そして最終局面でどのような心の準備をして引退を迎えるのか、更に引退後、どのような人生を目指すのか。小生自身は銀行生活34年のうち留学2年を含め17年間海外に駐在、その後製造業に転じてからの5年間も海外業務を管掌。そしてポチポチ現役生活の終局を迎えつつある。その体験をご紹介しながら、仕事・会社生活の入り口から出口までの一生についてご一緒に考えたい。

Key WordはTalent never lacks the opportunities.になる。

第7回 6月7日(火)



テーマ : 宇宙開発の現場で働くということ
講師 : 庄司義和 社会学部・昭和60年(1985年)卒
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
研究開発本部研究推進部 参与

同級生の多くが一流有名企業に進むなか、「何故？」と言われながら私は宇宙開発機関への就職を決めました。それから26年間。ロケットは安定的に打ち上がり、気象衛星「ひまわり」は日々の生活に定着し、バラバラ付ければ高画質の衛星放送を見れるし、GPSだって災害監視だって、意識することなく色んな仕事が宇宙を通じてなされる時代になりました。今や国際宇宙ステーションに人類が常時滞在する時代ですが、新しい技術開発のウラでは、覇権をかけた国と国との静かな戦いや、新たな仕組み・制度の開発が絶えず行われています。例えば「国際宇宙ステーションで犯罪が起きたら、どこの国の法律が適用される?」、こんな話や3年間のバリ駐在経験の話なども交えつつ、ちょっと違う職場の雰囲気を味わっていただきたいと思います。

第8回 6月14日(火)



テーマ : 中央銀行で働くということ
講師 : 服部正純 経済学部・平成3年(1991年)卒
オクスフォード大学経済学博士号取得・平成11年(1999年)
日本銀行金融研究所
経済ファイナンス研究課 経済研究グループ 企画役

日本銀行で国内外の金融市場や銀行業の調査分析を中心とした仕事をしてきました。取り組んできたトピックはその時々日本銀行の問題意識に沿ったものであり、資本市場の機能度、通貨危機のメカニズム、金融システムの安定性、円キャリートレードと国際的な信用量の関係、証券化関連の金融規制の効果など、大変多岐にわたるものです。思い起こせば学生時代から金融経済の動態に関心を持っており、その理解を深めたうえで、世の中に何らかの働き掛けができる仕事に就きたいと考えていました。私が日本銀行で取り組んできた仕事をご紹介することで、そのような仕事の楽しさをお伝えできればと思います。また、学生時代の経験談として、私の視野を大きく広げてくれた一橋大学海外留学奨学金制度での米国留学についてもお話をさせて下さい。

第9回 6月21日(火)



テーマ : 国際報道の現場から
講師 : 白川義和 社会学部・平成元年(1989年)卒
読売新聞国際部 記者

新聞社の特派員としてソウルとニューヨークに駐在し、北朝鮮の核、ミサイル問題や日韓関係、国連安全保障理事会のメカニズム、日本の安保理常任理事国入り運動などを取材してきました。日頃の勉強と人脈作りに加え、予期せぬ事態を受け止める柔軟さや新しい潮流を見抜く目が何よりも必要だと痛感しています。

学生時代はハンドボール部の活動にばかり打ち込み、社会に出てから「もっと勉強しておけばよかった」と思うことしきりでした。ただ、有り余る時間のなかで本を読み、仲間と語り合い、様々な刺激を受けたことはその後の記者生活に目に見えない形で生かされているように思います。拙い経験談しか語れませんが、ジャーナリズムに関心を持つ皆さんの参考になれば幸いです。

第10回 6月28日(火)



テーマ : チャレンジからチャンスは生まれる
講師 : 田内直子 商学部・平成元年(1989年)卒
味の素株式会社 アミノサイエンス事業開発部 専任部長

マーケティングを学び、将来はプロダクト・マネージャーとなって消費財の製品開発をしたい、というのが、大学3年生の頃の私の夢でした。それが、経営企画部で全社戦略検討やM&A担当という責任ある立場となり、また現在はバイオ・ファイン分野の事業開発で他社とのアライアンスをまとめたりと、自分としては大変やりがいのある仕事をしています。ただ、企業組織の中でがんばるだけで現在に至っている訳ではありません。如水会留学制度での留学、味の素入社、退社しケロッグビジネススクールにMBA留学、マッキンゼーへ転職、そして再入社と、今思えばいくつかの節目にかなり思い切ったチャレンジをしてきました。自分のキャリアをどう描いていくのか、私の経験からお話出来ればと思います。

第11回 7月5日(火)



テーマ : 後悔しない人生を送るために
講師 : 引頭麻実 法学部・昭和60年(1985年)卒
株式会社 大和総研 執行役員

私は、今では“死語”になりつつある、「男女雇用均等法」施行一年前の就職でした。就職活動当時は、体育会のバドミントン部に所属し、リーグ戦では入学時の6部から3部入れ替え戦を窺うところまで勝ち進んでおり、就職よりもリーグ戦の方を大切に思っているような学生でした。就職してからは、証券アナリスト、ストラテジスト、投資銀行業務、そして現在担当しているコンサルティングを経験しました。今振り返ってみると、毎日が激しいハプニングと学びの連続でした。こうした経験のなかで臆げに理解できたことは、「世の中は自分の理想通りに進まない」、そして「自分が変化できなければ生き残れない」という2点です。一度きりの人生。後悔ないように生きるにはどうしたらよいか、私もまだ模索中ですが、皆さんと一緒に考えましょう！

第12回 7月12日(火)



テーマ : 正義とお金
講師 : 深田豊大 商学部・平成6年(1994年)卒
新日本有限責任監査法人 パートナー 公認会計士

学生時代にただ何となく「サラリーマンになりたくない」という理由だけで公認会計士を目指したが、当時の目標は「一流の会計士」になる？ ひょんなことから会計監査業界に入りこみ、一時は米系投資銀行に転職もしたが、一貫して「会計」という軸を中心に仕事をしてきた。今や日本基準などなくして、国際基準(IFRS)に統一させられてしまうくらい大きく変わろうとしている。柔道のルールを日本で決められなくなるようなものだ。そもそも公認会計士とはどんな職業かということから、ますます複雑化・国際化する会計・監査の現状と、今後の展望についてお話をしたい。また、会計監査の現場、及び外資系投資銀行実務を通して見えてきた「正義とお金」についても考察してみたい。